岩手医科大学
Iwate Medical University School of Dentistry
第５号

歯学部だより

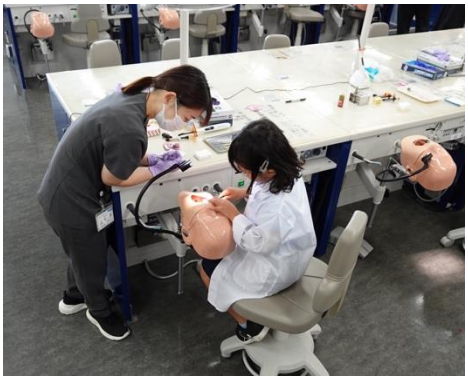
オープンキャンパスが開催されました

オープンキャンパス責任者　黒瀬 雅之

「体験型」への大転換が結実！次世代の歯科医療人を迎えた2日間

去る7月26日（土）・27日（日）の2日間、岩手医科大学矢巾キャンパスにて「オープンキャンパス2025」が開催されました。今年は、プログラムを大幅に刷新し、従来の見学型から、より実践的な体験型へと大胆な変更を実施いたしました。この改革が功を奏し、高校生・保護者の皆様から大変高い関心をいただき、例年の1.5倍から2倍となる多くの方にご来場いただくことができました。ご参加いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

1. **参加型体験実習への注力**：単に見るだけでなく、実際に歯科医師が使用する機器に触れる時間を大幅に拡大しました。
2. **新制度に対応した「総合型選抜」対策**：2025年度入試からスタートした総合型選抜に焦点を当て、担当教員による選抜方法の解説と個別面談を実施しました。
3. **活発な交流と未来への期待**：教職員に加え、現役の歯学部生が案内役として活躍してくれました。「キャンパスフリートーク」では、勉強法や学生生活など、“生の声”が飛び交い、先輩学生の生き生きとした姿は、本学歯学部の明るい教育環境を証明しました。



今回のオープンキャンパスを経て、岩手医科大学歯学部は、より実践的で質の高い教育を提供していく決意を新たにいたしました。ご来場いただいた皆様が、今回の経験を通じて歯科医療の奥深さに興味を抱き、今後のキャリア選択の１つに歯科医師となることを心より願っております。

ウェルかむ2025が行われました

口腔保健育成学講座歯科矯正学分野 助教 上田 茜

8月2日（土）、歯科医療センターにおいて「ウェルかむ2025」を開催しました。本イベントは、昨年に引き続き、将来の歯科医療を担う若い世代にセンターの役割や歯科医療の魅力を伝え、関心を高めていただくことを目的として実施したものです。今年は小学3年生から中学3年生までの11名が参加し、口腔内細菌の顕微鏡観察や型取りの体験を行いました。型取り体験では、従来の印象材を用いた方法に加え、近年普及が進む口腔内スキャナーによるデジタル印象も体験していただき、進化する歯科医療技術に触れる貴重な機会になったことと思います。本イベントを通じて、参加者の皆さんが歯科医療の魅力に心を惹かれ、将来、本学の一員として共に歩む日が訪れることを心より期待しています。

歯学部生の「今」

4年生 高野 太陽さん

入学してから早いもので4年が経ちました。振り返ると、基礎科目に追われていた頃が懐かしく感じられます。4年生になった今は臨床科目が増え、学んできた知識を実際の症例に応用する機会が多くなりました。思うようにいかず苦労することもありますが、その中で改めて基礎科目の大切さを実感しています。基礎の理解があるからこそ臨床での考察が深まり、学びが臨床につながる瞬間には大きなやりがいを感じます。

クラスメイトとも互いに刺激し合いながら、質問や意見を交わす中で理解を深めています。困難に直面しても、同じ目標をもつ仲間がいることで前向きに学び続けることができ、クラス全体で成長していることを実感します。

これまでの私は授業や実習を受け身でこなすことが多かったですが、来年から始まる臨床実習を意識し、今は積極的に学ぶ姿勢を心がけています。学ぶ楽しさと責任を感じながら、歯科医師としての一歩を踏み出す準備を進めています。

後段右端　髙野太陽（筆者）

3年生 高橋 利菜さん

大学に入学してから3年半が経過いたしました。3年生になり、ようやく歯学部らしい授業や実習が始まり、最近は勉強が少しずつ楽しくなってきました。

1、2年のころは基礎科目ばかりで歯科とのつながりが見えず、何のために勉強しているのか分からなくなることがありました。しかし今では、その知識が臨床科目に結びついていることを実感し、これまでの努力が報われているように思います。

実習ではまだまだ思い通りにいかず、不格好なものになってしまうことも多いですが、将来自分が実際にこのようなことをするのかと体感でき、期待に胸を膨らませています。

友人たちと支え合いながら課題や試験を乗り越える毎日は大変ですが、友達とご飯を食べに行き、時には遠出し、試験後のことを楽しみに勉強を頑張っています。

少しずつ成長を感じながら、理想の歯科医師像に近づくため、日々の勉強に励んでいきたいと思います。

高橋利菜（筆者）

学生カリキュラム委員会の開催！

教務委員長 武本 真治

2025年7月23日に学生カリキュラム委員会が開催されました。学生カリキュラム委員会！？って思われる方もいらっしゃるかと思います。これは現状のカリキュラムおよび学生生活・学習環境に対して改善して欲しいことを、歯学部各学年の学生代表と教務関係・学年の担任の教職員と意見交換をする会です。当日は、6年生から1年生まで順番にクラスで挙がった意見を述べてもらい、回答できるところは回答し、持ち帰って確認、改善できることはしています。学生からは講義や復習試験に関する要望、SGLの予約・使用方法、講義室に関する要望に加えて、大学設備の要望が挙がりました。学生と教職員がともに大学でのカリキュラムをよりよくできるように努めていきたいです。

第57回全日本歯科学生総合体育大会　準硬式野球部優勝

キャプテン　4年生 田中 悠斗さん

前段右から3人目　田中悠斗（筆者）

第57回全日本歯科学生総合体育大会準硬式野球部門に出場し、見事初優勝を果たしました。2年前の大会では一勝もできずに敗退し、チーム全体が絶望的な思いを経験しましたが、そこから一人ひとりが課題に向き合い、地道な努力を積み重ねてきました。その成果が今大会で実を結び、悲願の初優勝という最高の形で報われました。また、この結果は普段からご指導・ご支援くださっている先生方や、温かく見守ってくださるOBOGの皆さまのおかげでもあります。全国の歯科大学が集う中、困難な場面でも最後まで諦めず、仲間を信じて戦い抜いたことが勝因となりました。この経験を通じて努力と継続、そして感謝の心の大切さを学び、今後は野球のみならず学業や臨床の場でも全力を尽くしていきたいと思います。

マネージャー 4年生 青木 千春さん

第57回全日本歯科学生総合体育大会準硬式野球部門におきまして、創部以来初となる優勝を飾ることができました。昨年は悔し涙を飲んだ選手たちが、この夏、見事に栄冠をつかみ取りました。チームとして決して順風満帆ではありませんでしたが、選手同士が真剣に向き合い、「優勝」という一つの目標の下、心を一つにして戦い抜いた結果です。グラウンド内で嬉し涙を流す選手達をベンチから見た時、マネージャーとしてチームを支えられたことを誇りに思いました。

この栄光は、ご尽力くださった先生方、OBOGの皆様、そして日々支えてくれた家族の皆様の献身的なご支援のおかげです。

この経験で得た勝利の喜びと感謝の念を糧に、学業では部活動で培った「努力とチームワーク」を活かし、文武両道の実現を目指し精進します。

後段右端　青木千春（筆者）

論文が国際誌『Cancers』に掲載

関連医学分野 教授 千葉 俊美

口腔外科学分野の山田浩之教授と、関連医学分野の千葉俊美教授が共同で執筆した論文「Prospects for Narrow Band Imaging Magnification Endoscopy in Oral Lesions -Recommendations from Oral and Maxillofacial Surgeons and Gastroenterologist-」（口腔病変における狭帯域光観察拡大内視鏡検査の展望－口腔外科医・顎顔面外科医および消化器内科医からの提言－）が、国際的ながん研究誌『Cancers』に掲載されました。本論文は、口腔潜在的悪性疾患（OPMDs）などの悪性度を非侵襲的に観察する新しい手法として、狭帯域光観察（NBI）拡大内視鏡検査に焦点を当てています。消化器内科で用いられる上皮内乳頭状毛細血管ループ（IPCL）分類（タイプ0からIV）を口腔病変に応用することで、OPMDsの早期診断や、より正確な生検部位の特定につながる可能性を提言しています。この研究成果は、口腔がんの早期発見・診断の精度向上に大きく貢献するものであり、今後の歯科診療にNBI拡大内視鏡検査が広く活用されることが期待されます。

なお、本論文のプレプリント版はすでに100件以上のダウンロードを記録しており、学術界内外からの高い関心が寄せられています。

新任紹介　歯科医師卒後臨床研修センター長

歯科保存学講座 う蝕治療学分野 準教授 浅野 明子（あさの あきこ）

この度、歯科医師卒後臨床研修センター長を拝命いたしました浅野明子と申します。岩手医科大学歯学部の研修プログラムは、基礎から臨床まで幅広く学べるのが魅力です。詳細は岩手医科大学のHPをご参照ください。

今年の目標の一つは、研修医の「満足度の向上」です。自験患者を担当し、包括的な診療を実践できる体制づくりを進めています。その一環として、1～2週に1回のケースレビューを開催しています。研修医が積極的に質問し合い、ディスカッションが盛り上がる時間は、お互いに大きな刺激となっています。これからも、学びと成長の機会を大切にしながら、充実した研修の場をつくっていきたいと思います。

ぜひ、岩手で共に学びましょう！

3つのポリシーを知っていますか

岩手医科大学歯学部副歯学部長 岸 光男

岩手医科大学の基本理念が「医療人たる前に、誠の人間たれ」であるということをご存じの方は多いと思います。それとは別に、2017年度から学部ごとに3つのポリシーというものを策定、公表しています。3つとは、「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」で、日本語では「学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」そして「入学者受入れの方針」と訳されます。ディプロマ・ポリシーは、岩手医科大学歯学部卒業生が具備すべき要件を9つにまとめたもので、それらを備えるためにどのようなカリキュラムを設置しているかを示したのがカリキュラム・ポリシーです。そして、入学の段階で当歯学部学生として求められる資質を示したのがアドミッション・ポリシーです。すでに入学している学生諸君はアドミッション・ポリシーに叶った人材であり、カリキュラム・ポリシーに則った歯学部の過程を収めれば、自ずとディプロマ・ポリシーに掲げる要件を身に付けられるというわけです。ポリシーに示されていることを完全に身に付けることは困難に思えるかもしれません。しかし、理想がなければやる気も手段も得られません。だからあえて高い理想を掲げています。

3つのポリシーは、はじめに示した「誠の人間たれ」ほど知られていませんが、歯学部の具体的な教育理念が示されています。知らなかった方はもちろん、すでにご存じだった方も、改めて読んでみてください。3つのポリシーは以下のURLでご覧いただけます。アドミッション・ポリシーは歯学部入試情報の下に掲載されているため見つけにくいと思いますが、頑張ってスクロールして、見つけてください。

ディプロマ・ポリシー：https://www.iwate-med.ac.jp/education/diplomapolicy/
カリキュラム・ポリシー：https://www.iwate-med.ac.jp/education/curriculumpolicy/
アドミッション・ポリシー：https://www.imu-admission.jp/guidelines/gl_dent/

編集後記：編集委員長　熊谷 美保

今号も多くの方々のご協力を得て発行することができました。全歯体優勝という喜ばしいニュースもあり学生さんの努力と情熱に胸が熱くなります。卒業後も、全歯体で過ごした仲間との日々は懐かしく思い出されます。勉強とクラブ活動の両立に励む後輩たちを、頼もしく感じるとともに、母校のさらなる発展を願っています。

発行：岩手医科大学歯学部 編集：広報委員会

本誌に関するご意見・ご要望はkouhou-d@iwate-med.ac.jp まで
写真は執筆者各位の提供により掲載をしております。

Follow me!

@IMU_DENTISTRY